

令和7年度第7回原町区地域協議会 会議録

① 日 時：令和8年2月19日（木）10時00分～

② 場 所：南相馬市役所 東庁舎2階 第1会議室

③ 委 員

（委員数15名）

出席委員 10名

会 長 平間 勝成	副会長 志賀 ゆかり	委 員 逢坂 晃
委 員 小林 五月	委 員 坂下 悦子	委 員 前田 一男
委 員 半谷 眞知子	委 員 田中 章広	委 員 貝塚 大暉
委 員 藤原 ヒロ子		

欠席委員 5名

委 員 鎌田 文代	委 員 中村 博之	委 員 鈴木 洋道
委 員 鈴木 香織	委 員 長川 清隆	

④ 説明者：

市民生活部 部長 中本 直記
生活環境課 ごみ減量推進係 係長 岡崎 智洋
鹿島区地域振興課 鹿島活性化担当係長 田中 俊行
鹿島区地域振興課 副主査 藤田 はるひ
小高区地域振興課 課長補佐兼庶務担当係長 渡邊 幸以

⑤ 事務局：

原町区地域振興課	課長	戸浪	誠
原町区地域振興課	課長補佐	舘野	幸一郎
原町区地域振興課	主査	中林	順子

1 開会

○事務局 委員の過半数が出席のため、会議の成立を確認

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 会議録署名人の指名

貝塚大暉委員、志賀ゆかり委員を指名

(2) 書記の指名

原町区地域振興課 中林主査を指名

(3) 報告事項

- ① 南相馬市一般廃棄物処理計画(素案)に係るパブリックコメント手続き
の実施について(生活環境課) ……【資料1】

○会長

本日の新聞に掲載されたごみの分別に関して株式会社クボタと連携した
取り組みについて聞きたい。

○市民生活部長

市のごみの4割以上を占める生ごみについて、バイオマスを利用し抽出
したガスをバスの燃料とするため、生ごみだけを分別する機械を株式会社
クボタで設置し、市で分別する。再生利用を実装していけるのか、9月の
実装まで行政区長の協力を受けながら実施していく。全国初めての取組み
となる。

○会長

モデル地区はすでに決まっているのか。

○市民生活部長

これからお声がけする予定。立候補などしていただけるとありがたい。

○半谷委員

資料1－3の7ページに記載されている「フードドライブ」に関して、JAでも実施しており、女性部の総会・研修会において家で余る缶詰、乾麺、コメを持ってきてほしいと頼むと結構集まり、社会福祉協議会へ提供している。今後も取組みを継続し貢献していきたい。

○生活環境課ごみ減量推進係長

市でも年3回実施している。頻繁に実施することも難しいので、JAと連携させてもらえるとありがたい。

○坂下委員

JA、市、市内業者、コンビニエンスストアに協力いただき、フードパントリー事業を行っている。集まった食料を多子・生活困窮世帯にお渡ししている。需要は多く、米は社会福祉協議会が負担してお渡ししている。需要がなくなることが第一だが、社会福祉協議会でも関心をもって実施していくのでご協力をお願いしたい。

○生活環境課ごみ減量推進係長

今後もよろしくお願いします。

○逢坂委員

プラスチックの再利用について伺う。スーパーで買ったものについて値札が取れず、取っても跡が残る。シールをはがすスプレーもあるが、そこまでせずにごみにする人が多い。業者にはがしやすい値札を貼ってもらうと再利用しやすくなると思うが、どう考えているのか。

○生活環境課ごみ減量推進係長

値札等がはがれにくいという意見は多くいただく。市内のスーパーに相談すると簡単にはがせるといわずらされてしまうので、簡単にはがれないようにしているということであった。対応として限界はあるが、値札の部分だけ切って、シール部分を燃えるごみ、他はリサイクルとして分別していただきたい。

○逢坂委員

今聞いたように、確認すると分かるが、シールをはがせずに燃えるごみにしている人は多いと思う。値札が取れない場合切ってくださいなど周知した方が良い。

○生活環境課ごみ減量推進係長

昨日出前講座において同じ質問を受けた。チラシやガイドブックに「値札部分を切る」まで記載していなかったが、今後記載していきたい。負担がかかるようなら、ごみにするなどやりやすい方法で分別してほしい。

○市民生活部長

一部シール等が残っていても再利用できると確認しているが、事業者にどこまで残っていて再利用できるのかを確認している。確認後広報等で周知する。

○藤原委員

リチウムイオン電池について火災になる例が多く紹介されており、どのように処理すればよいのか不安である。

○生活環境課ごみ減量推進係長

4月1日からリチウムイオン電池を、市役所・各区役所・クリーンセンターへの持込みで回収する。この旨3月号の広報配布において回覧で配付する予定。ペール缶に水をはり、安全性を確保して、回収する。絶縁テープを張ってほしい。

○志賀委員

生ごみ処理について、自宅では埋めており、量を減らせている。プラスチックの分別も少し前から行っている。生ごみ処理器に対する補助金は今後も続くのか。

○生活環境課ごみ減量推進係長

好評いただいております、現時点では続く予定です。

○志賀委員

資料1－3の5ページの重点施策13として「高齢者世帯に対する収集・運搬の推進」が挙げられているが、どのように実施していくのか。

○生活環境課ごみ減量推進係長

生活環境課と長寿福祉課で連携し、要介護認定が高く、ごみ集積所まで持っていくことが難しい方に自宅でごみを回収する仕組みがある。申し込み後生活環境課と長寿福祉課で訪問し、状況を確認し認定する。市内に10世帯くらいおられる。

○坂下委員

高齢者のごみ収集・分別については、限られた社会資源ではあるものの高齢者も増えており、細分化した分別方法について細かい作業を行うことはなかなか難しい課題だと思う。運搬だけでなく、分別について間違っていると人件費がかかると思うので、社会福祉協議会としてもご協力できたらと考えている。

○生活環境課ごみ減量推進係長

状況としてご懸念は理解できる。年齢の点から分別を完璧にはできない方はいらっしゃる。細かく実施することが難しい場合は、最低限燃えるごみと燃えないごみを分けるところは実施してほしい。

○小林委員

2点質問があるが、1点目として家庭系ごみについて確認したい。事業者は家庭系ごみを出せないのか。現在市では震災の影響により住民基本台帳上の人口と実際に居住している人口にずれが生じているが、その影響があるのではないか。

2点目は処理費用について確認したい。資料1－3の3ページ、費用についてである。クリーンセンターの修理で費用が上がっていると聞いたが、令和16年のクリーンセンター停止後は費用がどのくらいかかるのか。

○生活環境課ごみ減量推進係長

事業系ごみは会社関係により生じたごみであり、本来家庭系ごみには含まれないが、実際の区分としてごみ集積所に廃棄されるごみを家庭系ごみ、事業所が持込み、みずから処分するものを事業系ごみと分けている。事業所からは、ごみ集積所に出してはいけないこととなっているが、実際には違反例はある。違反の確たる証拠がある場合訪問し指導することとなっており、実際に指導した事例もあった。

委員ご指摘の通り、一般廃棄物事業について現在の市の実態としては住民基本台帳上の人口では補足できていない居住者がおり、ごみの量も増える。環境省に相談したが、全国的な統計データでもあるため、変更することなく集計している。

○小林委員

令和7年に国勢調査を実施しているので、そのデータで計算してはどうか。

○生活環境課ごみ減量推進係長

参考にさせていただく。

○市民生活部長

クリーンセンター後継施設の建設費については、物価が高騰しているため計算が難しくなっている。人口減少を受けて生ごみを再利用し、炉は不要となりタンクを設ける予定である。ただ、施設の在り方は確定しておらず令和16年まで新たな技術を模索する。費用としては1トン当たり1億円かかる見込みである。

○小林委員

資料1－3の5ページ重点施策3「不法投棄の監視体制の強化」について聞きたい。私の住む行政区は海に面している。不法投棄は海岸に多く、

市役所に相談に行くが、海岸の管理は県・国となっており、解決が難しく区長会でも課題となっている。県などと連携し、対応してほしい。

○生活環境課ごみ減量推進係長

プライバシーの侵害に配慮しながら、カメラによる監視を行っているが、市のマンパワーには限界がある。地域と連携しパトロールをお願いしたりしている。

② 鹿島駅駅舎利活用施設整備計画（素案）についてパブリックコメント手続を実施する件について（鹿島区地域振興課）・・・【資料２】

○会長

鹿島区地域協議会において出された主な意見を共有してほしい。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

運用については、行政がやりたいことを実施するのではなく、地域住民も巻き込んだうえで実施してほしいという意見がありました。地域住民の関わりなく本事業の円滑な実施はないと考えており、来年以降取組んでいきたい。

○会長

地元の人が集える場所にしたいということだが、定住と移住のどちらに重点を置くのか。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

定住と移住のどちらも大切ですが、まずは地域住民の定住が重要だと考えています。特に若い世代の地域からの流出を抑制する必要があります。

○会長

鹿島駅の利用者が増え、駅に地元の人が集まることで、外から人が来ることにつながる。移住定住・交流・待合の駅の３スペースあるが、地域外の人に集まってほしいということが鹿島駅利用のコンセプトにあると思う。鹿島区の文化、自然には価値があるが、少子化により、現在高校生以

下は 200 人しかいない。1～4 歳が最小となっている現状である。そのから人が来ることも重視する必要があるのではないか。

○鹿島区地域振興課副主査

定住・移住の比重については、先ほど係長からも説明しましたとおりです。会長がおっしゃるとおり、鹿島の文化や自然は魅力があると考えています。こういった鹿島の魅力を地域住民の方々が再認識することにより、その魅力がさらに地域の人に育まれ、さらに地域の魅力が豊かになっていき、それにより地域外からの来訪者が増えると考えています。鹿島区の自然などの魅力に気付いてほしいと考えており、鹿島区がこういった魅力をもつ場所だということがしっかり伝わるような取り組みを行っていきたいと考えています。

○前田委員

駅の移住体験ゾーンの宿泊について知りたい。利用者は J R の利用者を想定しているのか、駅舎の利用者を想定しているのか。

交流・定住について常磐線の利用や鹿島区住民の利用が想定されているが、駐車場は足りるのか。

移住体験ゾーンの宿泊について電車の音と振動が心配である。どのように考えているのか。

○鹿島区地域振興課副主査

鹿島駅の利用者については、実際に午前 7 時から午後 7 時まで市で利用者数をカウントした。電車を利用するかしないかについても確認したところ、5～6 名駅のベンチで休む人がいたが、それ以外の方々は電車利用だった。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

2 点目の駐車場について、鉄道利用者ではない地域住民が利用する想定で駅南側駐車場を活用したい。当該駐車場は、かしま観光協会が運営しており、駐車区画に空きがあるため、一部活用について協議しています。鹿島商工会が管理運営する駐車場も駅前広場の南側にあります。

3 点目の移住体験ゾーンについては、宿泊も含む滞在ですので、駅の音や振動なども想定し設計を進めていきたい。

○前田委員

J Rの利用客はJ Rで分かっていると思うので、確認できるのではない
か。

無人駅の管理は観光協会で行うのか、チャレンジショップの職員が行う
のか。駅を作ったが人が集まらないとか、駐車場が足りずネックになるこ
とも少なくない。子供を車で駅まで送る人は少なからずおり、駅前広場だ
けで大丈夫かという不安は感じるが、質問はない。

○会長

オープンの時期は決まっているため、令和8年度は期限を切って前田委
員の意見も反映し進めていってほしい。2年後のオープンが確実に実現で
きるようスケジュールについてもよろしくお願いします。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

供用開始までの期間はあまり長くない。駐車場については鹿島商工会が
管理運営する7台分を実験的に開放している。改修後の駅前ロータリー
は、これまでに比べて駐車スペースが十分ではないため、駅利用者におけ
る駐車場確保に向けて需要のデータをとる必要がある。

○田中委員

鹿島区住民のこうあってほしいという希望を拾い上げてほしい。当面進
めていただき、より良いものを作ってほしい。

運用を地域おこし協力隊に任せる案もあるが、外から来た人に地域の人
に代わり運営してもらうことは適切なのか。視察した女川町で地域おこし
協力隊が活躍していたが、実施には地元の計画と熱意があった上で実施し
ていた。

地域への誇り・愛着が前提として求められる中で、地域に足りないマン
パワーやアイデアを地域おこし協力隊にゆだねるのではなく、鹿島区の住
民が行う方法になってほしいと思う。

集える駅舎として現状のスペースでは難しいのではないかと。国道6号線
からのアクセスの悪さや、駐車スペースに車が止められないなど事情が重
なると住民はいかなくなってしまう。住民はあまり来ず、外からきている
地域おこし協力隊の人が何かやっているとなくなってしまうと望ましくない。

小高駅で地域おこし協力隊が事業を行っていたが、続かなかったと聞い
ている。駅舎について用途外の利用の前例をリサーチしてほしい。お試し

ホームステイ、移住体験用住宅も市内で運営されていた。市内のよりみち（みなみそうま移住相談窓口）やミライエ（南相馬市の空き家と住まいの相談窓口）とも連携を検討してほしい。意見であり、質問はない。

○会長

小高区の先行事例は活かされるのか。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

地域への愛着は地元の人が醸成するものにとらえており、地域おこし協力隊には運営者として地元と協力してほしいと考えています。小高区事例との比較の話が出ましたが、駅舎の改修では地域おこし協力隊を会計年度任用職員として市が最大3年間雇用し、外部の視点を取り入れた意見等を活かしていきたいと考えています。あくまで地元が母体となって運用する想定です。

小高区のお試しハウスについてもヒアリングしたところ、市へ滞在中における行動計画などを提出しているとのことであり、そのような対応も参考に進めていければと考えております。

○鹿島区地域振興課副主査

補足させていただきますと、鹿島区の地域協議会からも施設の運営体制について意見が出まして、地域の人たちと一緒にやっていく、地元としっかりチーム作りを行うことの重要性についてご意見いただきました。

○小林委員

鹿島駅の駅舎は、JRで取り壊す予定であったところ、地元住民の要望を受けて、保存することになったと認識している。地域のコミュニケーションが取れる施設として、改築するのか。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

おっしゃるとおりです。躯体を調査し、安全性を考慮した設計において保存・活用を行いながら駅舎を改修します。

○会長

いろいろなご意見をいただいて、資料の書きぶりも変わってくるのではないかなと思う。駐車場、住民参加等を入れるとより伝わりやすくなるのではないかな。

資料2の3ページ5運営方法の運営手法案1の「直営」等記載は必要なのか。

○鹿島区地域振興課鹿島活性化担当係長

市直営とは専従する職員を配置するという趣旨です。3年間で指定管理者となる団体等の受け皿を作り、その後は指定管理者制度に移る案です。

③ 小高区自治振興基金の活用について（小高区地域振興課）・・【資料3】

○会長

高校生による小高区での実践事業において相馬農業高校の学生が参加していないのはなぜか。

○小高区地域振興課庶務担当係長

学校には依頼しましたが、希望者がいませんでした。今後も引き続きお声がけしたいと考えています。

○貝塚委員

私は小高区出身だが、事業実施にあたる生徒の学校構成は自分も気になった。メンバーは毎年変わるのか。

○小高区地域振興課庶務担当係長

高校3年生の5名は卒業するが、残りの20名には引き続き関わってもらおう。令和8年度は、新たなメンバーが加わる予定です。

○貝塚委員

相馬農業高校に対して広報や依頼は難しいと思うが、地元の生徒を巻きこむ募集方法を検討してほしい。

○半谷委員

新規の基金活用事業となる小高区民俗芸能保存伝承事業について、はしご乗りは対象になるのか。サッカーのなでしこジャパンやラグビー代表のシェフ西芳照さんに J A 祭りにおいて関わっていただき、多くの人を集客できた。

○小高区地域振興課庶務担当係長

はしご乗りについては、市ではなく県鳶土木工業連合会相双支部による開催であると記憶している。条例 6 条の該当性について持ち帰り確認する。西シェフは小高区出身であり、話題にはなるところである。具体案はないが、小高区地域振興課の振興担当に共有したい。

○小林委員

資料 3 参考資料小高区自治振興基金の状況(2)の花のまちづくり推進事業について令和 8 年度の予算が計上されなくなったのはなぜなのか。

○小高区地域振興課庶務担当係長

震災後小高区の住民が減少したため、町の環境美化と地域コミュニティで力を入れたいということで行政区において花を植えていただいた事業である。例年希望を取り行っていたが、行政区において水やりなど管理に負担が生じ、年々実施数が減っていた。一方で同種事業の重要性は認識しており、地域の絆づくり支援事業において補助金を活用していただけることから令和 8 年度の予算計上は行わないこととした。

○小林委員

令和 6 年度は実績額だが、令和 7 年度は予算を使っていないのか。

○小高区地域振興課庶務担当係長

令和 7 年度は花のまちづくり推進事業として、基金からの予算は支出まだしていない。地域の絆づくり支援事業において同様の事業を実施している地域はある。

○会長

民俗伝統芸能について相馬農業高校は学校として取り組んでいる。その相馬農業高校が、高校生による小高区での実践事業に関わっていないのは残念だ。相馬農業高校にも呼びかけて、小高区を盛り上げてもらいたい。

○小高区地域振興課庶務担当係長

事業においては、小高区以外の方が関わってもよく、相馬農業高校を想定していたものではないが、文化財課の事業もあり、関わっていただけると理想的ではある。

4. その他

○会長

令和7年度最後の開催となる見込みである。現在の委員での開催として最後となることから出席委員から感想や意見を頂きたい。

○前田委員

自分は商工業の事業者の立場だが、色々な立場や考えに気づいた。来年度以降も委員となる予定です。2年間ありがとうございました。

○坂下委員

福祉分野で働いており、普段の生活で関わらない市の方向性を知り勉強になった。

○小林委員

報告案件についてその後どうなったのか分からない。我々地域協議会としての意見がどのように反映されているのか不安である。

私の任期は終わるが、地域協議会において今後も良い意見を出して、市の事業を確認して行ってほしい。

○逢坂委員

2年間お世話になった。原町区の行政区長の100人程度から2人が委員となった。次に区長をお願いしようとしていた人がまだ仕事をしており、

兼任できないことから区長を再任する予定である。ありがとうございました。

○志賀委員

4年間委員をしている。副会長として会長に感謝をお伝えしたい。普段は介護を行っており、会議に出てくることが新鮮だった。気持ちに刺激を受けた。

○藤原委員

2年の予定だったが6年委員をさせていただいた。会長の人柄や専門的な話の説明を聞き、すべて新鮮だった。南相馬市をあまり知らず、少しでも知りたいという思いから委員になったが以前よりまちを好きになった。研修旅行も良い思い出です。お世話になりました。

○貝塚委員

2期にわたり委員を務めた。最新の市の情報を知ることができ良い経験となった。お世話になりました。

○田中委員

一言感謝申し上げる。勉強になった。普段一市民としては知らない職員や資料、説明を聞いて事情が分かった。区長の話を知ると歴史や現場の課題を知りより南相馬市の全体の状況を知ることができた。今年度でPTAも終了となり一区切りとなる。またどこかでお会いできたらと思います。

○半谷委員

JAのあて職として6年間委員となった。来年以降は別の職員に代わる予定です。ありがとうございました。

○会長

委員に恵まれていろいろな質問があったことが脳トレになった。皆さん各々の立場で意見を持っている。みんなの意見が反映される世の中になってほしい。それぞれの立場で言い合えたのは収穫だった。

○原町区地域振興課長

今年度は津波警報で急遽書面開催になるなどご対応いただきありがとうございました。来年度以降も継続される方につきましては、4月に鹿島区において合同会議となります。今後ともよろしくお願いいたします。

5 閉会

以上のとおり相違ありません。

会長

平間 勝 成

会議録署名人

貝 冢 大 暉

会議録署名人

志 賀 ゆ か り